サイクリング・パラダイスえひめ

センスアッププロジェクト

Vol.13

～自転車生活がもっと楽しくなるはなし～

ehime_sense　Instagram

「出し切る」走りで挑戦
3年連続日本一！

えひめ自転車人

松山城南高校　自転車競技部

青空の広がる午後、瀬戸風バンク（松山競輪場）で松山城南高校自転車競技部が練習をしていた。数人ずつが一列になり、滑走している。まるでグループの全員が一つにつながっているかのような整然とした走りで、風を切る音を響かせ、目の前を一瞬で通過していく。「日本一」の走りだ。松山城南高校自転車競技部は、平成29年度・平成30年度の2年連続で「全国高等学校総合体育大会（インターハイ）」学校対抗総合優勝に輝いた。さらに平成30年度「全国高等学校選抜自転車競技大会」でも総合優勝を果たし、創部から3年で高校生の自転車競技大会を制覇した。

現在、部員は女子1人を含む19人。小学時代から大会に出場していた選手や、高校生になって始めた選手など、自転車競技との出合いはさまざま。ナショナルチームに選出された北宅柊麻さん（3年生）は「中学2年のときに、父から運動不足にならないようにとすすめられました」ときっかけを話した。「父の知り合いの競輪選手に憧れ、自転車競技がしたくて松山城南高校に進学しました」と岡本翔さん（2年生）。

練習はキツイはずだが、彼らのパワフルな走りとすがすがしい姿からは「つらさ」ではなく「気持ちよさ」が伝わってくる。彼ら自身がどう感じているのかを聞いてみた。「力を出し切る気持ちよさと、練習した分だけ強くなる達成感を経験できます」と主将の飯尾文太さん（3年生）。練習環境の良さを求めて大阪から進学してきた塩谷真一朗さん（1年生）は「風を切る感覚が好きです。上林（東温市）の山道や、海沿いの道で練習するときには風景が流れていく気持ちよさがあります」と笑顔を見せた。

顧問の鮫島浩二先生は「集中力を持って取り組み、力を出し切るよう指導しています。世界で羽ばたく人間力を育てたい」と語った。進学や就職、自転車競技のプロなど、目指す進路はさまざまだが、今、19人の部員の胸の内には共通の目標がある。インターハイ3連覇だ。「3連覇を目指してやれるだけのことをやり、出し切ります」と飯尾さんは意気込む。

6月1日、瀬戸風バンクで「愛媛県高等学校総合体育大会」の自転車競技が行われる。彼ら松山城南高校の選手をはじめ、まっすぐな目をした高校生が繰り広げる熱いレースをぜひ観戦してほしい。

企画・制作／愛媛新聞社営業局

MTBでタフに駆ける松野四万十バイクレース

愛媛県と高知県をまたぐ自然豊かなエリアを駆け抜ける本格的マウンテンバイクレース。過酷さで人気！

今年で4回目を数える「松野四万十バイクレース」が6月2日に開催される。愛媛県松野町と高知県四万十市にまたがる自然豊かなエリアが舞台となるレースで、プロライダーとして知られる今治市出身の門田基志選手（GIANT）をはじめ、トップライダーが参加するレースとしても知られている。

今年はコース距離41㎞、103㎞、133㎞の3部門。いずれのコースにも、この大会時のみ開放される国有林内の林道が含まれている。オフロード率が高く、斜度15％の激坂があるアップダウンの激しいコースで、「日本一過酷な自転車レース」といわれているそうだ。補給ポイントでは、地元の人によるアトラクションや食のおもてなしなど、心がほっこりする趣向がある。森や渓谷を抜け、川の中を走るアドベンチャーが楽しめるこのレースは、来年も開催予定！来年に向けてマウンテンバイクに挑戦してみませんか。

「サイクリングパラダイス」を目指す愛媛県のサイクリング情報は、愛媛の自転車情報ポータルサイト「ノッてる！えひめ」をチェックしてみよう！